様式 C-19

# 科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年４月３０日現在

機関番号：　３３５０２
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2007～2010
課題番号：１９５２００５６
研究課題名（和文）　チベット仏教における「大中観」思想の研究

研究課題名（英文）　A Study on ‘the Great Madhyamaka’ in Tibetan Buddhism

研究代表者
望月　海慧（MOCHIZUKI KAIE）
身延山大学・仏教学部仏教学科・教授
研究者番号：７０３１９０９４

研究成果の概要（和文）：本研究課題において、インド大乗仏教において成立した中観思想のチベットにおける展開の一側面を解明した。すなわち、チョナン派のトルプパ・シェーラプ・ゲルツェン(1292-1361)およびターラナータ・クンガニンポ(1575-1640)による大中観思想の概要が明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：In this study I investigated the development of the Madhyamaka philosophy in Jo nang pa school of Tibetan Buddhism and it was made clear how Dol po pa Shes rab rgyal mtshan (1292-1361) and taranatha Kun dga’ snying po (1575-1640) had accepted it in the name of ‘the great Madhyamaka.’

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| ２００７年度 | 1,600,000 | 480,000 | 2,080,000 |
| ２００８年度 | 700,000 | 210,000 | 910,000 |
| ２００９年度 | 600,000 | 180,000 | 780,000 |
| ２０１０年度 | 500,000 | 150,000 | 650,000 |
| 年度 | | | |
| 総　計 | 3,400,000 | 1,020,000 | 4,420,000 |

研究分野：インド・チベット仏教
科研費の分科・細目：印度哲学・仏教学
キーワード：チベット仏教、チョナン派、大中観、トルプパ、ターラナータ

１．研究開始当初の背景

(1)チベット仏教思想研究の初期の段階では、チベット各宗派の概説が説かれた宗義書による研究が主体となっていた。それ故に、その内容はそれを著した著者の所属する宗派の視点からチベット仏教思想を考察したものであった。チョナン派に対する代表的先行研究である谷口富士夫（『西蔵仏教宗義研究第六巻　トゥカン『一切宗義』「チョナン派の章」』東洋文庫，1993）や David Seyfort Ruegg によるものはゲルク派のトゥカンによる宗義書に基づいている。また荒井裕明、池田道浩、高田順仁、袴谷憲昭らの先行研究もゲルク派の視点からチョナン派を批判した論争に関するものである。

(2)そのような中で、チベット仏教において非主流派であるチョナン派の文献の解読も徐々になされるようになり、ゲルク派の空性理解とは異なる「他空説」をめぐる研究が近年のチベット仏教研究の話題のトピックの一つになっている。その代表的研究としては、Cyrus Stearns, *The Buddha from Dolpo*, Albany, 1999、Mathew T. Kapstein, *Reason’s Traces*, Boston, 2001、Jeffrey Hopkins, *Mountain Doctrine*, 2006、id., *The Esence of Other-emptiness*, Ithaca, 2007 などの著書ならびに Klaus-Dieter Mathes によ

る諸論文が発表されている。これらの研究成果により、チョナン派の学者であるトルプパやターラナータの著作の一部が解読され、彼らの思想内容が少しずつ明らかにされてきた。

(3)またチベット仏教研究は、Tibetan Buddhist Resource Centre によるチベット仏教文献のデジタル化などが急速に進み、研究環境は次第に整ってきている。そのような状況の中で、彼らを含むチョナン派の思想の特徴を示す大中観説・他空説を解明することがチベット仏教思想史を解明するために重要な項目となっていた。

(4)さらに研究代表者は、本研究課題を開始するにあたり、インド仏教の論書における「大中観」の語の用例およびその思想的根拠に関する予備的調査も行っている。またトルプパの中観理解を考察するために、彼の二諦説理解についての研究も開始しており、研究方法を確立する準備は整っていた。

２．研究の目的

(1)本研究代表者は、平成 14 年 4 月から平成 17 年 3 月にわたり科学研究費基盤研究(C)(2)の助成を受けて「チベット仏教におけるラムリム思想の基盤に関する研究」（課題番号 14510028）を行ってきた。チベット仏教の思想研究をおこなう今回の研究課題は、この研究課題の延長線上にあり、チベット仏教思想史の構築を目指すものである。

その目的は、インド仏教において成立した中観思想がチベットにおいて思想史上新たな発展を見せた「大中観」の思想的基盤とその展開について解明することである。具体的には、チョナン派のトルポパ・シェーラプ・ゲルツェン(1291-1361)、同派のターラナータ・クンガニンポ(1575-1640)らの著書を解読することを通して、「大中観」思想が成立する基盤、並びにその思想がチベット仏教に与えた影響を分析することにより、チベット仏教思想史における「大中観」思想の意味を明らかにすることを目的とする。

(2)仏教の根本思想の一つでもある縁起思想を諸存在の無自性・空により解釈したナーガールジュナに始まる中観思想は、インドにおいてバーヴィヴェーカの自立論証、チャンドラキールティの帰謬論法などの新たな解釈を導入し展開していった。チベット仏教ではこのインドの中観思想を分派的発展と理解した上で、サキャ・パンディタらによるサキャ派は前者の立場を、ツォンカパ・ロサンタクパらによるゲルク派は後者の立場を導入し、新たな思想的論争をチベット仏教にもたらした。これらの主流派とは異なり、ゲルク派の諸論師から如来蔵思想として批判されたものがトルプパらによるチョナン派の「大中観」思想である。本研究課題は、この「大中観」の思想的基盤およびチョナン派における展開を解明することを目的とした。

(3)チョナン派において「大中観」の思想を確立したのが、同派を代表する学者のトルプパである。彼の著作を調査し、そのチベット語テキストの校訂と翻訳を完成した上で、彼の大中観思想を確立する基盤となった文献の調査、および彼が定義する大中観思想を明らかにする。

続いて、インド仏教史の著者としても知られているチョナン派の中期を代表する学者であるターラナータの著作を調査し、チョナン派における大中観思想の展開を解明する。

これらの調査により、チベットにおいて成立した大中観思想がどのような思想的根拠により成立し、どのように展開していったのかが明にすることを目的とする。さらにそれにより、チベット仏教思想史の一部を解明することにもなるであろう。

３．研究の方法

(1)研究方法は、チベットの古典文献を解読する文献学的手法を基礎作業として用いる。具体的には、以下のインド・チベット仏教における諸論師による文献を取り上げ、校訂テキストならびに翻訳を完成させ、そこに引用されるテキストなどの典拠あるいは語例の調査研究と、それに基づく思想的解読を行うものである。

(2)インド仏教文献に見られる「大中観」の用例を再確認し、大中観思想の基盤となった思想を解明する。これについては、「大中観」の語をインドにおいて用いたディーパンカラシュリージュニャーナおよびその師の一人とされるラトナーカラシャーンティの著作を調査する。この作業には予備的研究において調査済みの彼らの著作を利用し、それらとトルプパやターラナータの著作とに引用されるインド仏教の経論を比較することにより、大中観思想のインド的萌芽を明らかにする。

(3)「大中観」の思想を確立したトルプパの著作については、Mathew Kapstein 作成の目録、Tibetan Buddhist Resource Centre による彼の著作集の PDF データを利用し、顕教文献の中から中観思想・如来蔵思想に関するものを取り上げる。彼の主著である『山法了義大海』については Jeffrey Hopkins により先行研究があるので、それを利用する。その他のスモール・テキストについて、チベット語の校訂テキストとその和訳を作成した

上で、その思想内容を解読する。これによりトルプパが定義する大中観思想の定義と、その論拠とされたインド仏教文献を明らかにする。

(4) ターラナータの著作著作についても、Jonang Foundation の Web サイトによる目録、Tibetan Buddhist Resource Centre による彼の著作集の PDF データを利用し、顕教文献の中から中観思想・如来蔵思想に関するものを取り上げる。彼の著作についても Jeffrey Hopkins らによる先行研究を利用する。その他のスモール・テキストについて、チベット語の校訂テキストとその和訳を作成した上で、内容を解読する。これによりターラナータの理解した大中観思想、およびトルプパとの解釈の異同を明らかにする。

(5) 以上の基礎的作業によりチョナン派による大中観思想を説く文献のテキスト・データ・ベースが作成される。これらのデータを調査することにより、インド仏教における大中観思想の萌芽から、チベット仏教におけるチョナン派の大中観思想の成立とその展開を総合的に考察する。

４．研究成果

(1)「大中観」のタームは、インド文献に見られるものの、後に定義されるような意味を有していなかった。ただしその思想に展開するような萌芽はすでにディーパンカラシュリージュニャーナとラトナーカラシャーンティらのインド仏教文献に見ることができた。すなわち、彼らは後代のチベットの宗義書ではそれぞれ中観派とか瑜伽行唯識派と思想的立場が与えられているものの、彼らの著作においては自らが中観派とか瑜伽行唯識派であるというような認識をもたず、それぞれの論書を融合して受容していたことが明らかになった。これらの具体的成果については、本研究課題と並行して行われている調査において、ディーパンカラシュリージュニャーナの著作の解読およびラトナーカラシャーンティの『経集釈・宝明荘厳論』の和訳研究として完成した。

(2) トルプパの著作についても、文献学的調査が行われた。具体的な成果としては、トルプパの著書のうち、『二諦解明陽光論』、『宝性論釈善説陽光論』、『肉食飲酒禁止の聖典に導く』、およびナーガールジュナの『讃法界頌』に対する脚注文献の校訂テキストとその翻訳（和訳・英訳）を完成した。さらにこれらのテキストを解読することにより、彼の大中観思想が、インドのディーパンカラシュリージュニャーナやラトナーカラシャーンティと同じような手法で、瑜伽行唯識派や思想を中観思想と融合したものであることが解明された。また、中観派の開祖であるナーガールジュナに帰されるものの、如来蔵思想を説く『法界讃頌』のような文献が重要な意味をもっていたことが明らかになった。

(3) またタータナータの著作については、大中観の名が付される『最高乗広説大中観確定論』のチベット語校訂テキストと、その和訳を、注釈書の和訳とともに完成した。同論は、全８章のタイトル「自性の認識」、「所知の境」、「如来蔵・法界」、「八識」、「五法・三性・縁起」、「二無我」、「二諦」、「道・果」からもわかるように、大中観と言うものの、瑜伽行唯識派あるいは如来蔵思想に基づいていることがわかる。そのテキスト自体も、同派の開祖とされるマイトレーヤの主要文献からの引用が含まれている。それ故に、彼の大中観思想は、トルポパ以上に、中観派の文献よりも、瑜伽行派の文献に基づいていたことが解明された。

(4) これらの研究成果については、日本印度学仏教学会や日本宗教学会での学会発表や学会誌、並びに所属機関の研究紀要などに年度ごとに発表している。また研究代表者の研究成果だけでなく、本研究課題に関連する研究成果を国内外から募り、その成果を公表する場として *Acta Tibetica et Buddhica* を創刊した。本誌は、英文論文を主体とし、海外の研究機関にも送付することにより、国際的にも注目されている。

　またターラナータの『最高乗広説大中観確定論』とその和訳を完成したことで、チョナン派の思想展開が解明され、それによりチベット仏教研究に与える波及効果は大きいと思われる。

(5) 本研究課題がチベット仏教研究にもたらす今後の展望としては、チョナン派の大中観思想が他派にもたらした影響を解明することである。例えばサキャ派のシャーキャ・チョクデンなどは、明らかに「大中観」を明言している。またその他にも、類似する思想を他派に見いだすことも予測できる。本研究の成果は、そのための基礎資料となりうるものである。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 14 件）

①望月海慧「Taranatha の *dBu ma theg mchog* 第 3 章「五法と三性と縁起の決択」について」『身延論叢』査読無, 15, 2011,（印刷中）
②望月海慧「Taranatha の *dBu ma theg mchog*

第 6 章「二無我の決択」について」*Acta Tibetica et Buddhica*,査読無, 4, 2011, pp. 109-154.
③望月海慧「Taranatha の *dBu ma theg mchog* 第 3 章「仏の心髄である法界の決択」について」『身延山大学仏教学部紀要』査読有, 11, 2010, pp. 1-19.
④望月海慧「Taranatha の *dBu ma theg mchog* 第 2 章「一切の所知の境の決択」について」『インド論理学研究』査読無, 1, 2010, pp. 313-332.
⑤Kaie Mochizuki, "On the fourth Chapter of the *dBu ma theg mchog* by Tāranātha," *Acta Tibetica et Buddhica*, 査読無, 3,2010, pp. 129-154.
⑥Kaie Mochizuki, "On the first Chapter of the *dBu ma theg mchog* by Taranatha,"『印度学仏教学研究』査読有, 58-3,2010, pp. 136-143
⑦望月海慧「Dol po pa の『宝性論釈善説陽光論』について(III)」『身延山大学仏教学部紀要』査読有, 10, 2009, pp. 1-50.
⑧Kaie Mochizuki, "On the Commentary on the *Ratnagotravibhaga* by Dol po pa,"『印度学仏教学研究』査読有, 57-3, 2009, pp. 111-118.
⑨望月海慧「Dol po pa が言及する飲酒・肉食を禁止する経典」『宗教研究』査読無, 82-4, 2009, pp.322-323.
⑩ Kaie Mochizuki, "On the Scriptures introducing the Prohibition of Meat and Alcohol by Dol po pa," *Acta Tibetica et Buddhica*, 査読無, 2, 2009, pp. 25-64.
⑪望月海慧「Dol po pa の『宝性論釈善説陽光論』について(II)」『身延山大学仏教学部紀要』査読有, 9, 2009, pp. 65-119.
⑫「Dol po pa は *Dharmadhātustava* をどのように読んだのか」『印度学仏教学研究』査読有, 56-2, 2008, pp. 85-91.
⑬「On the Commentary to the *Dharmadhātustava* by Dol po pa (II)」*Acta Tibetica et Buddhica*, 査読無, 1, 2008, pp.17-44.
⑭「「Dol po pa の二諦説理解について(II)」『身延山大学仏教学部紀要』査読有, 8, 2007, pp.23-64.

〔学会発表〕（計 5 件）
①Kaie Mochizuki, "On the fourth chapter of the *dBu ma theg mchog* by Taranatha", 17th Seminar of the International Association for Tibetan Studies, Aug. 17. 2010, the University of the British Columbia, Vancouver
②望月海慧「Taranatha の *dBu ma theg mchog* について」日本印度学仏教学会第 60 回学術大会, 2009 年 9 月 9 日, 大谷大学
③望月海慧「Dol po pa は *Ratnagoytavibhāga* をどのように読んだのか」日本印度学仏教学会第 59 回学術大会, 2008 年 9 月 4 日, 愛知学院大学
④望月海慧「Dol po pa が言及する肉食・飲酒を禁止する経典」日本印度学仏教学会第 58 回学術大会, 2008 年 9 月 15 日, 筑波大学
⑤望月海慧「Dol po pa は *Dharmadhātustava* をどのように読んだのか」日本印度学仏教学会第 58 回学術大会, 2008 年 9 月 4 日, 四国大学

〔図書〕（計 4 件）
Kaie Mochizuki ed., Minobusan University, *Acta Tibetica et Buddhica*, Vol. 1, 2008, 133 ps.
Kaie Mochizuki ed., Minobusan University, *Acta Tibetica et Buddhica*, Vol. 2, 2009, 206 ps.
Kaie Mochizuki ed., Minobusan University, *Acta Tibetica et Buddhica*, Vol. 3, 2010, 218 ps.
Kaie Mochizuki ed., Minobusan University, *Acta Tibetica et Buddhica*, Vol. 4, 2011, 228ps.

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）
なし
○取得状況（計０件）
なし

〔その他〕
なし

６．研究組織
(1)研究代表者
望月　海慧（MOCHIZUKI KZIE）
身延山大学・仏教学部仏教学科・教授
研究者番号：７０３１９０９４
(2)研究分担者
なし
(3)連携研究者
なし